

強風被害を軽減するためのレタス苗生産技術

窒素含量が80~100mg/lの育苗培養土を用い、育苗日数35日程度の苗を定植することにより、定植後の欠株を抑制

背景・目的

- ・種子島地域では秋～冬季に15m/s以上の季節風が吹き、定植後にレタス苗の折損や欠株の被害多発
- ・従来、レタスは定植後の生育促進のため大苗を定植していたが、大苗ほど強風の影響を受けやすい
- ・強風被害を軽減するための、葉身の短いコンパクトな苗生産技術が必要

成果の内容

- ・窒素含量が80~100mg/lの培養土を用い、35日程度育苗することにより、下胚軸の径が2mm以上、長さが4mm以下、葉長が6cm以下のコンパクトな苗が生産可能
- ・窒素含量が150mg/lと多くなると下胚軸、葉長は長くなりやすい
- ・コンパクトな苗の定植により、強風被害を軽減でき欠株を防げ、収穫株数の減少を抑制できる

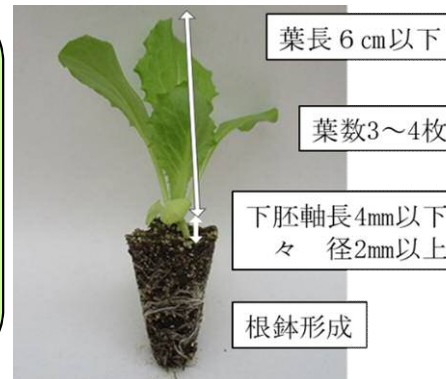


図2 理想的なレタス苗

期待される効果

○収穫株数の確保により、収量が安定



定植後の生育

普及対象・範囲
県内の強風被害を受けやすいレタス栽培地帯

鹿児島県農業開発総合センター
熊毛支場園芸研究室

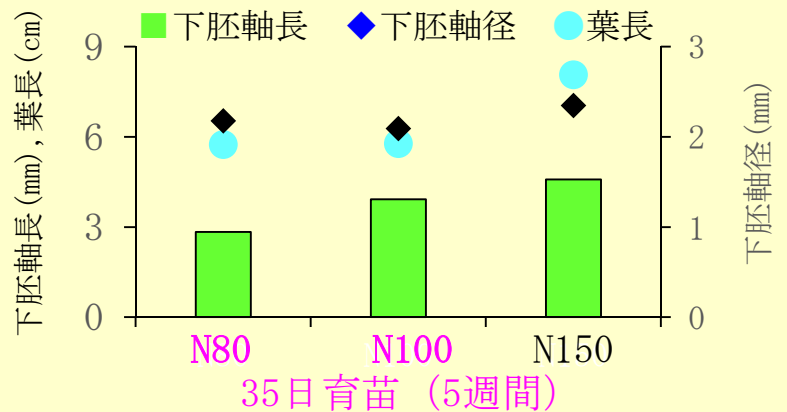


図1 育苗培養土の窒素含量とレタス苗の生育

表1 定植後の欠株率と収穫株数

育苗日数	培養土の種類	欠株率 (%)	収穫株数 (個/10a)
28日 (4週間)	N 80	5.0	7,030
	N100	4.9	7,037
	N150	16.1	6,209
35日 (5週間)	N 80	3.1	7,171
	N100	1.7	7,274
	N150	13.0	6,438

注) 令和元年度熊毛支場での試験結果である